

【新学術領域研究（研究領域提案型）】

人文・社会系



研究領域名 トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築— 多文化をつなぐ顔と身体表現

中央大学・文学部・教授

やまぐち まさみ
山口 真美

研究課題番号：17H06340

研究者番号：50282257

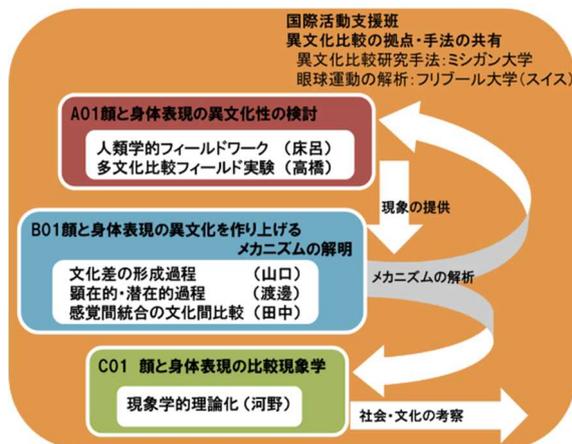
【本領域の目的】

顔と身体表現は常に個人の由来を露出し、かつ顕著に表現し、あるいは個人が何者であるかを読み解くことができる、隠すことのできない媒体である。グローバル化が叫ばれる現在、これまで無意識に行ってきた顔と身体にかかわる営みを意識化し、それぞれの文化で「当たり前」とされてきたことを再考する領域を立ちあげたい。すなわち、多様な文化の中での顔と身体表現が持つ可能性、顔と身体を使いこなすことにより異文化理解を促す可能性を、心理学・文化人類学・哲学の視点から、既存の研究分野の枠組を超えてともに検討していきたいと考える。

本研究領域では他者と異文化を理解する試みを、顔と身体表現の無意識を意識化することにより行う。ふだん意識することのない視線の動きの解析から、さまざまな文化差が解明されつつある。このプリミティブな身体表現の意識化されていない点を意識化することにより、文化の中で閉じられたコミュニケーションを理解し、他者や異文化・異質性の受容を導きたい。多様な文化的背景と個の多様性から、顔と身体表現に関する共通性と異質性を、個人内・外・間という3つのレベルで多層的にあぶり出すことで、東アジア文化圏に位置する日本の人文社会から新たな研究領域を構築する。

【本領域の内容】

顔と身体表現の文化による多様性を検討する研究と（研究項目A01）、意識化されない表現の意識化のための基礎的研究（研究項目B01）として、顔認知の潜在的・顕在的学習過程とその発達を知る認知心



理学的実験研究（行動実験、視線計測、生理反応計測）やその神経基盤を探るための機能的脳イメージングを用いた検討、また大規模調査による顔認知や身体表現の能力・方略スペクトラムのデータベース化も進める（研究項目A01とB01）。文化差の解明に貢献した眼球運動測定を駆使し、文化による多様性を検討する研究（研究項目A01）では、持ち運び可能な実験システムによる文化比較や文化人類学的フィールドワークを組み合わせた研究を行う。顔と身体表現の比較現象学（研究項目C01）では、顔と身体表現に関わる歴史や文化の分析を通じて、その意味の再構築を試みるとともに、化粧行為や様々な行為の中で顔と身体表現を解釈していく。

【期待される成果と意義】

心理学、文化人類学などの実証的なアプローチに加え、顔と装いに関する哲学的な視点も取り入れ、アカデミックな領域のみのインパクトを越えて、広く社会全体に真の異文化交流の意義と視点を広げたい。哲学は言葉と概念を駆使し、個々の事実とその解釈を1つの表象へとまとめ上げていく作業でもある。顔をめぐると他者理解／異文化理解の問題を、広く社会に啓蒙していく手段を模索していく。また、化粧や装いについても広く考察し、ヴェール・スカーフや仮面などがもつ社会的意味を考え、女性ならではの特性も生かしながら、顔と文化について広く啓蒙していきたい。本研究領域では心理学と文化人類学・哲学を基礎として、人文社会の様々な領域の枠組みを融合することにより、「顔と身体表現」の異文化理解における新たな視座を提供する。

【キーワード】

トランスカルチャー状況、顔と身体表現

【研究期間と研究経費】

平成29年度－33年度
573,300千円

【ホームページ等】

<http://kao-shintai.jp/>
contact@kao-shintai.jp